

市民と市長のまちかどトーク 事例説明（概要）

- 日 時：平成22年8月29日（日）午後2時30分～午後4時00分
- 場 所：ロビンソン小田原店 4階ギャラリー
- 参加者：80名

生ごみのサポーター 笹村^{いずる}出さん（段ボールコンポストの実物を用いて説明）

生ごみのサポーターで、久野で養鶏業をしている。段ボールコンポストは、段ボールの中に、おがくず・ピートモス（こけ）などの基材を入れてから、その後水を入れ調整し、生ごみを入れてスタートする。毎日500～1,000g生ごみを入れるが消えていく。二酸化炭素と水分になって消えてしまうのである。不思議に毎日500g入れてもさして増えてこない。合計して100kgぐらいの生ごみを段ボールコンポストの中に入れることが出来る。出来たものが堆肥となる。これが段ボールコンポストの中から取り出したものだ。これを1月くらい熟成させ出来たものが堆肥となって使えるようになる。後ろに展示してある、とうもろこしは7月25日に生ごみサロンで直接段ボールコンポストからの堆肥を半分取り出して、土を入れ、そこへ種をまいてどうなるか見てもらおうと、作ったもので、1か月たったらこのようになった。植物を育てて、自分が食べる。生ごみを通して食べ物が循環する仕組みを体験できるのが段ボールコンポストの大きな目標である。

生ごみが単なる、ごみになってしまったら、処理に22億円かかる。これからはもっと費用がかかるだろう。段ボールコンポストに生ごみを毎日入れることを、一人ひとりがやることで普段のごみ出しが2週間に1回位になる。生ごみを各家庭で、コストも手間もかからないで処理でき、すごく良い循環を体験できる。

ただ、コツが必要だ。約800件の段ボールコンポストをやっているが、半分の人が1年間継続できれば良いと思っている。難しさは、ぬかづけと同じレベル。外国人にぬかづけを頼んだら失敗するだろう。しかし、日本人は醗酵技術が身に付いているので、段ボールコンポストの成功率が高い。家でぬかづけを上手な人は醗酵のコツ、水分量、かきまわすコツがつかめている。基材も準備できるので、まったく無料で永続的にやっていくことが出来る。合理的なやり方なのでコツを小田原の人に広めていきたいと考え、生きごみサポーターを行っている。

生ごみのサポーター 笠原久弘さん

下堀の笠原です。無職年金暮らしです。2年前から知り合いの勧めで段ボールコンポストをやり始めた。良いことが色々ある。時間があるご年配の方が、大勢いらっしやると思う。まだ、行っていない方はぜひやってない方は奥さん孝行でやってほしい。

私はできた堆肥で野菜を作ったり、花を植えたりしている。お見せしている、この花は、第1回の基材の配布のときに貰った松葉ボタンである。挿し木して増やしたものだ。この他にニラ、ソラマメ、レタス数種類があり、昨日は作った枝豆を食べた。

なぜこのように段ボールコンポストをやっているかという、罪悪感からである。わたしは、岡山の農家で生まれ、家には堆肥小屋があり、家から出るごみのほとんどをそこへ入れていた。生ごみをごみ袋に入れ、市役所で処分してもらうことはほとんど無く、生ごみを循環して新しい生命を生むということを作ってきた。途中の段階で焼却炉に入れることは、自然の摂理に反することなので、段ボールコンポストをやって気が楽になった。

もう1つの理由は、焼却炉で生ごみを燃やすのはお金がかかるということである。生ごみは水分が80%、大根は90%以上あるが、燃やすということは水を蒸発させなければならない。覚えやすい数値を紹介すると、水を0℃から100℃に温めるまでの熱量は、沸騰している水が完全に蒸発するまでの5倍熱量が掛かる。それを考えると生ごみを燃やすのは、大変なことだ。少しでも生ごみを減らして、税金を有効に使うことが市民としての願いである。

段ボールコンポストを2年間やると色々と経験できる。段ボールコンポストの水捌けが良くなって腐らせてしまった。また、虫が湧いたこともあった。気持ちが悪かった。はさみで生ごみを切ったが、間に合わなかった。夏みかんが腐りかけたので、段ボールコンポストに入れたら次の日に蛆虫が集っていた。しかし、虫も生ごみ堆肥化のお手伝いをしてくれる。今週の初めに温度が65℃あって、段ボールを替えたが、四隅に虫が生きていた。

今朝見てもらうため、段ボールを衣装替えした。なきがらがあるが、虫もグルメである。

生ごみのサポーター 和田道明さん

ひよっこサポーターです。昨年11月にサポートセンターで、笹村さんがブースで説明をしていたのを見てからやり始めた。

わたしは、10坪くらい家庭菜園をやっており、今まで肥料を買っていた。少しは家庭菜園に役に立つのではないかと考え、その日から基材を購入して、開始した。その後、10か月間のお話をする。

11月から冬に差し掛かった。外気の関係でなかなか温度が上がらず、サラサラしたものが出来なかった。温度が上がると活性化すると聞いたので、油やヌカを入れる・段ボールを二重にする・新聞紙をかませるなど行くと効果が出た。すると、虫も湧かなくなった。段ボールがボロボロになった。大きな経験ができた。ある程度の肥料になると、家庭菜園に使っている。

1月末、小泉さんより基材を仕入れ、3月末に終わった。できた堆肥は、寝かせて、夏野菜に使った。皆さんに成果を見せたいが、畑を持ってこれないため、代わりに写真を持ってきた。一番盛んなのは、ナス。4本植えた。隣の畑のナスとは違い毎朝取らないと大

きくなりすぎるくらい元気である。1日10～15個取れる。処理できないくらいだ。今年の暑い気候のおかげか、肥料のおかげかは来年また段ボールコンポストをやってみないとわからない。

10ヶ月間、2人暮らしで毎日500g位の生ごみを段ボールコンポストに入れた。概算すると100～150kg位を出した。今まで生ごみを捨てていたので、年金暮らしでも役に立っている。

8月中旬に堆肥が出来上がって現在は寝かせている状態だ。秋野菜のために使おうと思っている。次回は畑をお見せしたい。

毎朝生ごみが溜まったものを、かき混ぜるのが楽しみである。自然にできて、環境にお役に立てることが嬉しい。1回ではなく、継続的に毎日楽しみながら続ける方法があるのが良いと思う。

ありんこホーム作業所 杉山幸雄さん

ありんこホーム作業所には、障がいを持っている方がいる。知的・身体・精神の障がい。もともと生まれたときに障がいを持っている方、成長の途中で障がいになった方もいる。最近は発達障害、高次脳機能障害がある。

ありんこホーム作業所は30年前に小田原市の協力を得て、借家から始めた。現在3箇所作業所を運営し、1ヶ所10～20名で作業している。段ボールコンポストの基材の仕事に関わるのは偶然だった。半年前にマロニエでサポートセンターのお祭りがあり、ありんこホーム作業所の所長と笹村さんから「こんなことができないか」とお話をいただいた。

わたしは個人的に段ボールコンポストをやったことがあったが、この度ピートモスやおがくずなどの配合、袋詰めするという取り組みに関わり、そしてお配りする作業をやらせていただいた。

4月から始めたが、その頃は、まだ暑くなかった。しかし、2回目の基材を作った7月・8月上旬は、暑い時期だった。生きごみサポーターの皆さんより教えてもらい、始めた。ピートモスはどこから仕入れるか、配合はどうするのかなど、何も知らないところから始めた。

基材作りは、ある程度の場所が必要である。また、ピートモスはある程度のまとまった量を仕入れるので、一時的に保管する場所が必要である。小田原市内の作業所は13箇所、借家を使っており、小田原市から家賃補助を貰っている。基材の作業所には向いていなかったの、色々な方に保管する場所がどこかにないかを聞いた。千代に作業所をやっていた場所があり、稲刈りが終わる位までは空いているというビニールハウスを借りて、そこに材料を一時的に保管し、材料を混ぜ合わせる作業をやらせてもらった。また、下府中の民生委員が、ボランティアとして埃まみれになりながら手伝ってくれた。

障がいを持っていても地域で当たり前のように暮らしたいというのが、私たち、利用し

ている当事者、家族の願いである。周りの人から支えられながら行っている。1人でも多くの方が行っていけるよう、これからまだまだ解決しなければいけない課題があるが、障がいを持つ人と一緒に出来る限り関わっていきたいと思う。